



所長の部屋



今さら聞けない病気の常識 ②新型コロナ：検査

京都府南丹保健所長 時田 和彦

今回は新型コロナの検査について書きます。新型コロナ感染が疑われた場合、まず実施するのは、PCR(ピーシーアールと呼びます)検査と抗原検査のどちらかです。

PCRとは、微量のDNA(RNAの場合はRT-PCRと呼ぶ)を短時間で100万倍にも増幅する方法です。検査材料(検体と呼びます)の中に微量のウイルスがいれば、3時間程度で陽性に出ます。検体は、主に鼻咽頭ぬぐい液(鼻孔から8-10cmも綿棒等を入れて採取)を、医師や看護師が取ります。最近では唾液や鼻腔(鼻孔から2cm程度)検体を、患者自身が取ることも可能です。

PCR検査は、主に専門機関や大病院の検査室で行っています。最近になり、PCRキットが売り出されました。精度は従来のPCRより若干落ちるものの、一般病院の外来で、短時間で結果が出るので便利です。

抗原検査もPCR検査と同様、検体は主に鼻咽頭ぬぐい液でしたが、最近では唾液や鼻腔の検体も使用可能です。この検査も、従来は大きな機械を使用していましたが(抗原定量検査と呼びます)、最近になり抗原定性キットが発売されました。検査精度は、抗原定量ではPCR検査とほぼ同等、抗原定性では若干劣ります。定量・定性ともに、30分前後で結果が出るのが大きなメリットです。

注意したいのが、PCR検査や抗原検査が陰性でも、身体の奥にウイルスが潜っており、検体の中にウイルスが出なっただけ、ということがあるのです。また、ある日の検査で陰性でも、その時期はまだ潜伏期で、翌日以降に陽性になる、ということもあります。検査結果の解釈は、医師等に相談しましょう。